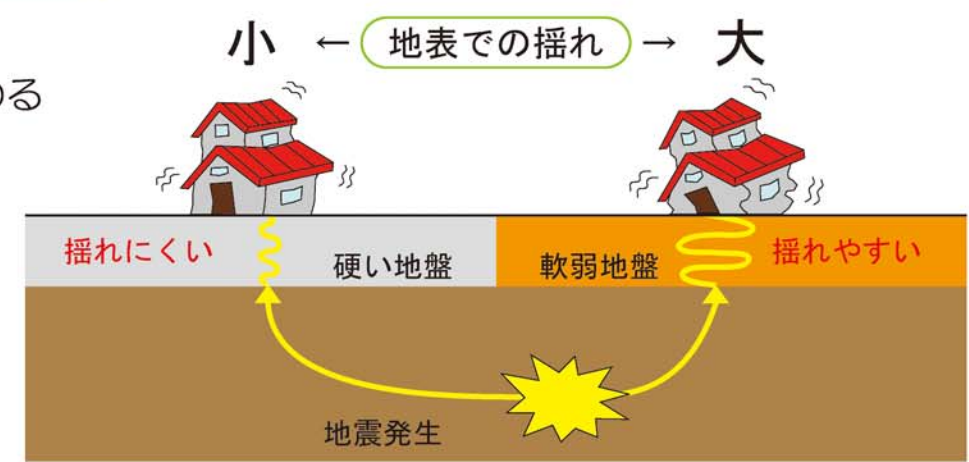


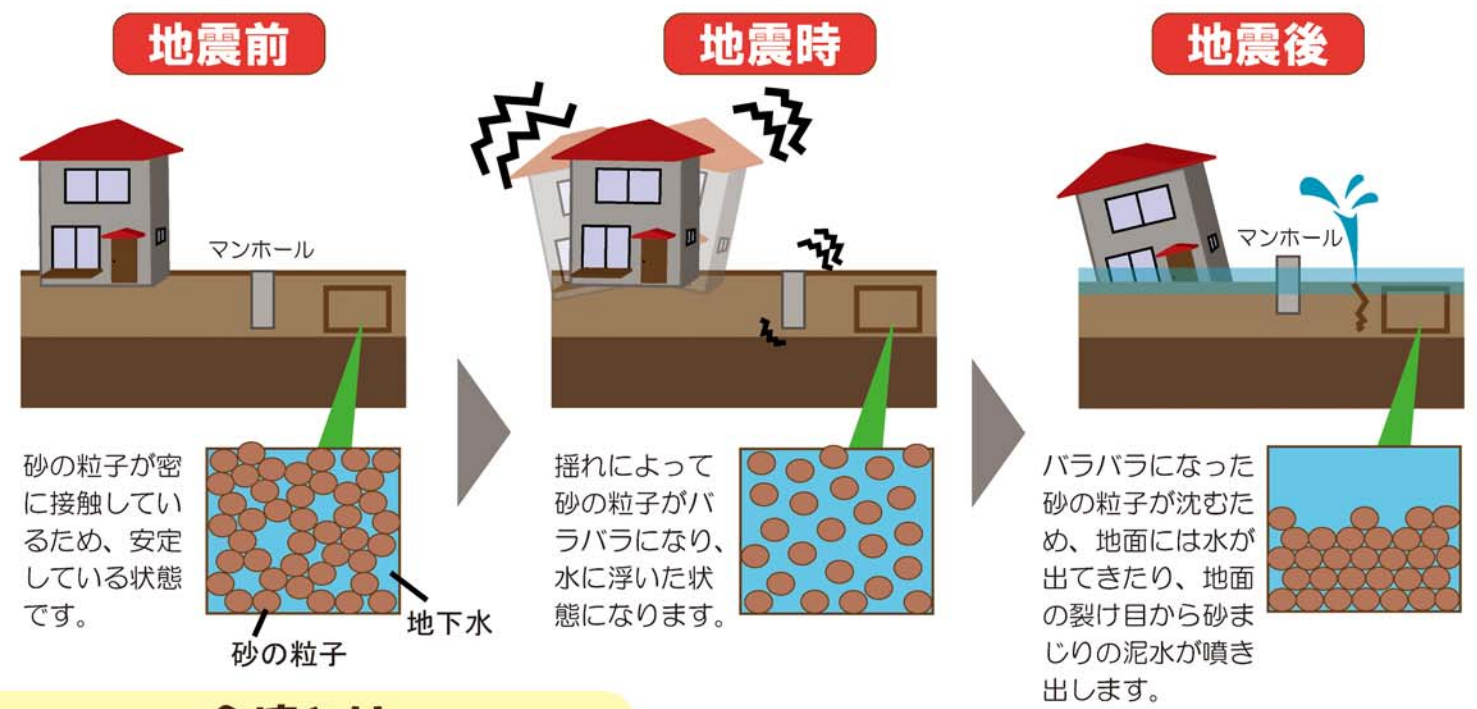
### 揺れやすさとは

- 揺れの大きさは、
- ① 震源からの距離によって変わる  
震源から地表付近までの距離が近いほど揺れは大きくなる傾向があります。
  - ② 地盤の硬さによって変わる  
硬い地盤では揺れにくく、軟弱地盤では揺れやすい傾向があります。



### 液状化とは

液状化は、地震の揺れによって地盤が一時的に泥水のような現象で、地下水を含む軟弱な砂質地盤で発生します。この現象により、建物が傾いたり地下の埋設物が被害を受けます。



### 全壊とは

「全壊」とは、台風や地震などの自然災害による建物被害の中でも、もっとも大きく被害を受けた状態を示しています。国によって定められた「災害の被害認定基準」(平成13年6月)では、「居住する上で危険な状態」を全壊としています。



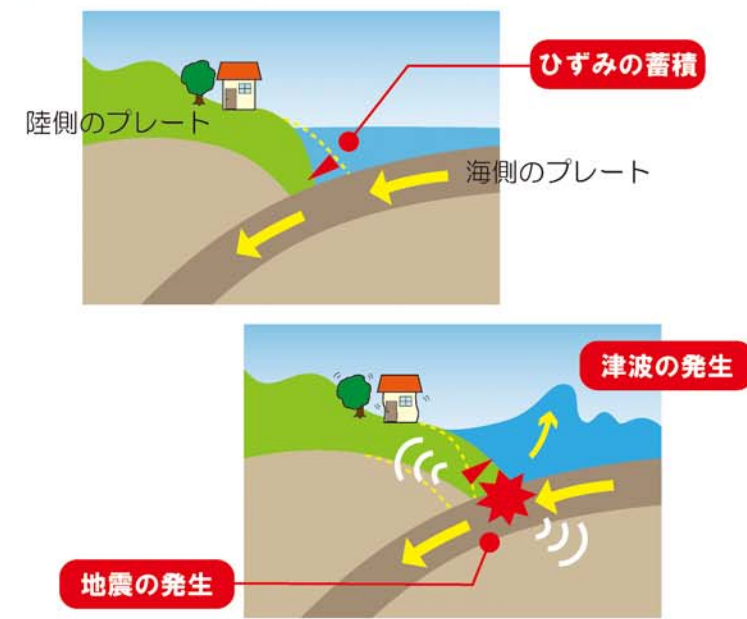
※災害に係る住家の被害認定基準運用指針(内閣府) 地震被害調査のための建物分類と破壊パターン(岡田成幸、高井伸雄)を参考に作成

### 地震のしくみ

地震は、地下の岩盤に力が加わり、ある面(断層面)を境にして両側の岩盤がずれ動く断層運動により発生します。プレートの沈み込みにより、岩盤は次第に変形し、ひずみという形でエネルギーが蓄積されますが、ひずみが限界に達すると岩盤の破壊(地震)が起こり、蓄えられていたエネルギーが地震波となって放出されます。この地震波が地中を伝わり、地面を揺らすことになります。日本周辺で発生する地震は、活断層の活動による「内陸型地震」と「海溝型地震」に大別することができます。

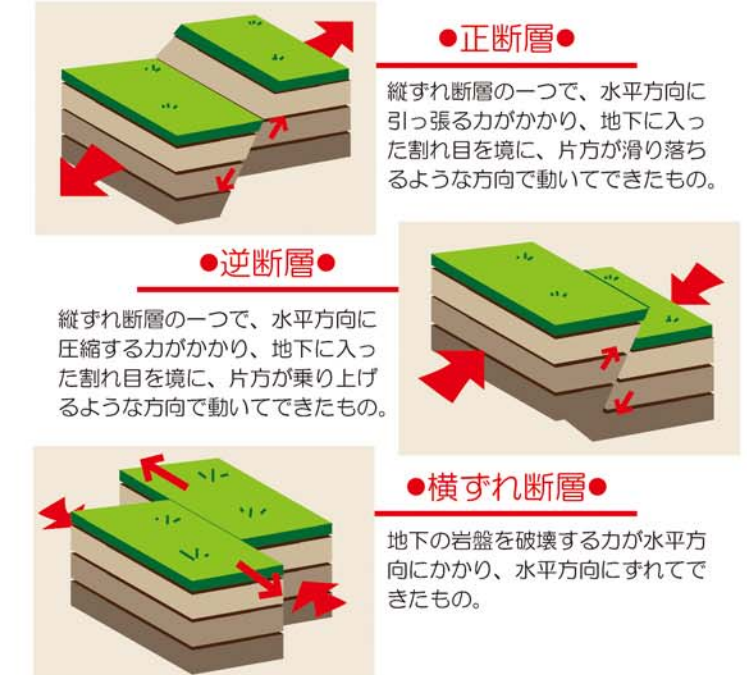
#### 海溝型地震の発生

海側のプレートが陸側のプレートの下へ潜りこもうとする力と、陸側のプレートが引きずり込まれまいと耐えようとする力が限界に達したときに、引きずり込まれた陸側のプレートが跳ね上がり、発生する地震です。規模は大きく、また大規模な津波が発生する場合があります。



#### 内陸型地震の発生

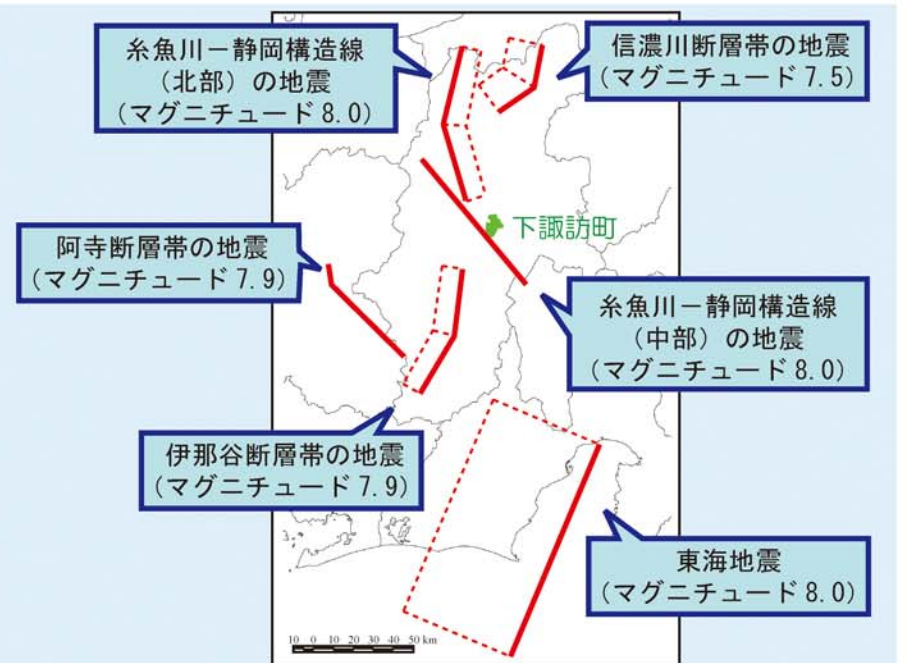
過去の地震により生じた断層(活断層)が動いて起こる地震など陸側のプレート内で発生する地震です。規模は海溝型地震より小さいものの、震源が浅く、都市の直下で発生した場合は甚大な被害が予想されます。



### 地震の震源域

長野県では平成12年度から14年度にわたって、県内において過去に大きな被害をもたらした地震や、調査時点の科学的知見で今後発生する可能性がある地震について、物的・人的被害の状況を総合的に検討しました(長野県地震対策基礎調査、平成14年3月)。

想定地震として、内陸活断層(糸魚川-静岡構造線断層帯、信濃川断層帯、伊那谷断層帯、阿寺断層帯)による地震と、プレート境界で発生する海溝型地震(東海地震)が想定されています。



長野県が想定する6つの地震『長野県地震対策基礎調査』(平成14年3月)より

# 地震

地震がおきても、慌てずに行動を!

